

令和3年度学力向上推進（ふくぎ じんぶなープラン）取り組み報告書

園名 城岳こども園

4充実している 3おおむね充実している 2あまり充実していない 1充実していない (O印)

	具体的取組	評価 (前年)	反省評価
1 園児一人一人が大切にされ、良さや可能性を認め合う学級経営	○一人一人を大切にした学級経営の充実が図れた。	3.1 (3.6)	クラス担任が3人ずつ配置されており、子どもが安心して過ごせる様その子にあった関りや、細やかな対応ができた。個々の良さを引き出せる様担任間でその都度連携を図った。また、遊びや活動など子ども達が主体的に活動できる様、子どもの声を拾いながら取り組みの内容の工夫を図った。しかし、行事に追われるとゆとりがなくなり一人一人の意見を尊重してあげることが難しかった。また支援児への対応にいきがちでクラス全体として平等な関りがとても難しかった。 ▼評価ポイントが下がっているので、学級経緯の在り方について再度確認、協議していく。
	○教師や友達と関わり、認め合う学級経営が図れた。	3.5 (3.4)	1人ひとりの気持ちを大切に、思いを受け止めることで信頼関係を築いていった。安心して話し合える場の雰囲気大切に、子ども同士で相手の話を聞く、受け入れる、伝える事ができるよう見守ったり、時には仲裁にはいたりした。行事や様々な経験を通して担任や、友達との関りも深まり、一人一人の頑張っている姿や、良さを皆の前で褒めていったことで、子ども同士で互いの良さに気づき、頑張りを認め合う姿がみられた。
2 「確かな学力」の育成	○遊びを通して主体的な活動を促す環境構成や援助の工夫をした。	3.3 (3.2)	こども達が「やってみたい」と思えるような用具を準備し、遊びが展開していけるような環境づくりに努めた。週に一度の週案会議では、子どもの実態に合わせた環境を構成する為の貴重な時間となっている。こども達の遊びに合わせてコーナーの充実を図るも、発展できなかった遊びもあった。保育教諭も一緒に遊んで遊びこむことが少し足りなかった。
	○言葉による伝え合いや文字や数量等に関する興味関心を育む援助の工夫ができた。	3.0 (3.4)	行事や日々の活動の中で、文字(手紙等)や数(葉っぱ拾い等)に触れる機会を設ける事で文字への関心を高めていけるようにした。新しい遊びをとり入れることで更に深めていけるようにする。こどもからの質問にすぐに答えるのではなく、一緒に考えたり、思いを言葉にして伝える大切さを感じられるような関りを心掛けた。うまく伝わらない時には気持ちを代弁しながら気持ちを確認し言葉で表現できるようにした。 ▼反省評価には、改善点の記入はないが、評価が下がっているため、取り組み方について話し合いが必要。
	○身近な人に親しみ、関わりを深め愛情や信頼関係を育む援助の工夫ができた。	3.3 (3.0)	コロナ禍にあり、人と関わる活動に制限がある中で、感染防止対策を講じながらも勤労感謝訪問等を実施する事で、身近な人への感謝の気持ちを持つ取り組みが行えたのは良かった。園内では、異年齢で過ごす事が出来た。こども同士での関りを大切に、時には見守り、仲裁に入る等の援助を行った。こどもが発する前に言葉で話してしまう事があった点を反省し、こどもと共に考え、援助していけるような工夫を行う。また絵本や紙芝居等を利用し伝えていけるようにする。

	○健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身につくような援助の工夫ができた。	3.4 (3.3)	「新しい生活様式」の取り入れにより、様々な生活スタイルの変化に戸惑いながらも、その都度確認し合い、子ども達と一緒に考えることで、感染予防を自ら気付き行動できるようになった。遊びや活動中のケガや事故に繋がる行動は、ヒヤリハットを利用しながら全体で環境構成を見直し、こども達自身でも怪我に繋がる行動を意識できる様働きかけた。日々の生活の中で場面に応じて手洗い、うがい、水分補給の大切さについて絵本や紙芝居を利用し、丁寧な指導に努めた。
3 基本的な生活習慣の形成	○「早寝早起き朝ごはん」「食べて動いてよく寝よう」「戸外で体を思い切り動かす」取組の工夫をした。	3.3 (3.2)	毎朝のラジオ体操、マラソン、リレーをとり入れ体を動かす心地よさが味わえる活動を多く取り入れることで、体力向上、食欲増加へも繋げることができ良かった。静と動のバランスを大切に内容の工夫を行っている。夏休み等の長期の休みでも、生活習慣を崩さないよう園だより等で周知を図るも、休み明けの乱れがみられるのが課題。登園時間をその都度子ども達と確認し合い、遅刻への意識を高めた。
	○家庭と連携し、望ましい生活リズムの確立を図った。	2.6 (2.7)	朝の「挨拶当番」等をとり入れることで、時間を意識して登園してくる姿が見られた。遅刻がなかなか改善されない家庭支援として家庭だけの問題とはせず、園での様子を伝えながら改善へと繋げられるよう工夫を行うも、なかなか改善が見られなかった。園だよりやHP等で園での様子をこまめに発信しているが、保護者アンケートにて「園での様子をもっと知りたい」との意見があり、送迎時等、日々の保護者との連携が不足していたのかと反省し改善していく。 ▼保護者との連携が不足していたとの反省評価の記入が多かったので、職員全体で丁寧な連携に努める。
	○規範意識やマナーを身につける援助の工夫ができた。	3.2 (3.0)	遊びや活動の中で、ルールやマナー等場に応じた行動ができるようその都度知らせていった。「一人は皆の為に、皆は一人の為に」という意識が芽生えるような言葉かけに努めた。職員が日頃から挨拶や、言葉遣い感謝の気持ち等、模範となれるようにする。
	○「食」への関心を高める保育の工夫を図った。	3.2 (3.4)	野菜を植えから収穫まで行い、調理提供してもらう事で、食への関心が高まっている。日々の献立を指さししながら確認したり、特に行事食では丁寧な説明を行う事で行事との繋がりにも興味を持てるようにした。食が細い子へ「食事は楽しい」「食べる事の大切さ」を伝える声掛けが難しく、工夫に努める。 ▼職員で「給食係」を設け、こどもからのリクエストを献立に取り入れたり、食材の展示等の食育に関する工夫を図るも評価ポイントが下がっているため、取り組み方の改善へと繋げる。
4 学力向上マネジメント	○計画的な園内研修を実施し、保育に生かすことが出来た。	3.6 (3.4)	園内研修を通して支援児の姿を職員間で共有することができ、関わり方や配慮の統一化に繋げることが出来た。支援児だけでなく、全園児一人ひとりの情報を共有していけるような工夫も行っていく。園内研修の他に職務会、臨時職員会議等を随時行う事で、教育保育に活かせる細かな対応を共通認識する事ができた。
	○PDCAサイクルを活用し、日々の保育改善と安全管理を行った。	3.1 (3.1)	週案の時間に日々の振り返りを行い、反省を次週に活かし、より良い教育保育が提供できる様務めた。コロナ禍で前例のない行事への取り組み方に苦慮し反省が多かった。伝達が伝わっていない事が多々あり、改善を図るも、全体的に周知が不足しているのが課題。

	<p>○保育記録をもとに、保育カンファレンスを行う等、幼児理解を深めることができた。</p>	<p>3.0 (2.9)</p>	<p>保育記録を基に子どもとの関りを色々な視点から振り返る事が出来たが、カンファレンスに活かす事が不十分だった。一貫性を持った教育保育が行えるよう些細な事でも共通理解を図り全職員で幼児理解へと繋げていった。</p>
	<p>○保育者同士による保育参観を行い、保育の質の向上が図られた。</p>	<p>3.2 (3.1)</p>	<p>互いの教育保育を参観し合う事で、自分の指導の仕方、言葉かけ等の振り返りとなり、改善に繋げる事で、質の向上に繋がった。次年度はクラスリーダーの活動参観だけでなく、サブの行う活動も参観できるようにし、更なる質の向上を目指す。</p>
<p>総合 評価</p>	<p>14項目の平均：3.2(3.2)</p>	<p>反省 評価</p>	<p>コロナ禍でも、こども達のがのびのびと心身ともに健やかに育っていけるよう、行事を全て中止するのではなく、コロナ対策を講じた様々な工夫により、可能な限り実施することが出来た。しかし、感染状況による度重なる変更で、日程調整や、内容の工夫、練習時間の確保の調整が難しかった。自己評価を通して日頃の教育保育を見直す事が出来た。園生活の一つ一つがこども達にとって学びの場となるよう、やってみたいと思えるような環境構成の工夫に努める。こどもの主体性が育つような関りを大切にしていく。職員同士の共通理解はおおむねできているので、保護者と連携をとり教育保育への理解をさらに深められるよう働きかけていく。PDCAサイクルにより継続的な改善を図り教育保育の質の向上に努める。</p>

